

Ⅱ 評価・検証の目的と進め方

1 目的

平成19年度から実施した、本市の高等学校改革の成果と課題を洗い出し、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる、魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資することを目的としている。

なお、平成21年3月に策定した「**千葉市学校教育推進計画**」では、「基本施策(13) 学びの連続性を重視した教育の推進」において、「具体施策34 市立高等学校教育の充実」のアクションプランとして、「122 市立高等学校改革の評価・検証」が位置づけられている。

2 進め方

(1) 評価・検証の年度(中間まとめと最終まとめ)

市立千葉高校は、平成19年度入学生から普通科が順次単位制に移行し、平成21年度から普通科の全学年で単位制を実施した。平成22年3月には、単位制に移行して初の卒業生を送り出した。

一方、附属中学校は、平成19年度に開校し、平成21年度から全学年がそろい、平成22年度には、附属中学校の平成19年度入学生が市立稲毛高校へ進学し、初の内進生となった。

したがって、平成22年度は、単位制に移行して初の市立千葉高校卒業生の進路状況及び生徒の状況、並びに稲毛高校の内進生及び附属中学校の生徒の状況等を調査するのにふさわしい年度である。さらに、その3年後の平成25年度には、稲毛高校初の内進生が卒業し、その進路状況等を調査することができる。

このようなことから、評価・検証を実施する年度は、次のとおりとした。

○平成22年度 調査の実施と評価・検証(中間まとめ)… 概要版(7ページ参照)

○平成25年度 調査の実施と評価・検証(最終まとめ)… 本報告書

(2) 「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」

ア 研究会の位置づけ

評価・検証を行うための研究組織

イ 研究会の役割(平成25年度)

研究会は、(3)で示す各種調査を実施し、その内容をもとに、改革の「成果と課題」を洗い出し、評価・検証の「最終まとめ」を行い、教育委員会会議に報告する。

ウ 構成員(平成25年度)

高等学校教育に関わる教育委員会各課の担当者及び小・中・高等学校現場の代表者で構成した。(23ページ参照)

(3) 各種調査（平成25年度）

(3) に記すページ番号は一部を除き別冊「資料編」のもの

ア 基本調査

(ア) 市立千葉高校

次の項目について、改革3年前の平成16年度と平成22年度、平成25年度のデータを比較できるよう調査した。

①生徒数等（1ページ参照）

志願倍率（平成19・22・25年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数、部活動加入状況、進路状況

②教育課程（2ページ参照）

科目数・学校設定科目の設置状況

(イ) 市立稲毛高校・附属中学校

次の項目について調査した。

①生徒数等（20～23ページ参照）

志願倍率（平成19～25年度）、在籍生徒数、居住区別生徒数、教員数と中高兼務の状況、部活動加入状況、市立稲毛高校への進学状況、進路状況

②教育課程（24・25ページ参照）

科目数・学校設定科目の設置状況

イ 意見交換会

市内小・中学校の校長代表を対象に、次のとおり意見交換会を開催した。

(ア) 小・中学校長代表対象：平成25年10月29日実施

①内容

授業参観（市立稲毛高等学校・同附属中学校）

市立高等学校概要説明

意見交換

②参加校長（本編23ページ参照）

(イ) 意見交換結果

①市立千葉高校について（3ページ参照）

②市立稲毛高校・附属中学校について（25・26ページ参照）

ウ 聞き取り調査

(ア) 市立千葉高校：平成25年10月29日実施

市立千葉高校の教頭、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事及びSSH推進部長を対象に聞き取り調査を行った。

(イ) 市立稲毛高校・附属中学校：平成25年10月21日実施

市立稲毛高校・附属中学校の副校長、教頭、高校教務主任、中学教務主任、生徒指導主事及び進路指導主事並びに前中高一貫室長・学校活性化委員会事務局、内進1期生担任・現1学年主任、内進1期生3学年主任、適性検査主担当、国際交流部長、特活指導部長を対象に座談会方式で聞き取り調査を行った。

(ウ) 調査結果

- ①市立千葉高校（４～６ページ参照）
- ②市立稲毛高校・附属中学校（２７・２８ページ参照）

エ アンケート調査

平成２５年１０月実施

市立千葉高校・市立稲毛高校（内進生・外進生）・附属中学校の生徒・保護者及び卒業生を対象にアンケート調査を行った。

調査結果

- ①市立千葉高校（７～１９ページ参照）
- ②市立稲毛高校・附属中学校（２９～４１ページ参照）

千葉市立高等学校改革の評価・検証 ～中間まとめ～ 概要

平成23年2月 千葉市教育委員会

背景・経緯

情報化社会や国際化社会をはじめとする社会の変化と進路ニーズや教育ニーズの多様化

→これらに対応するとともに、これまでの文武両道の教育の伝統を生かした魅力ある市立高等学校づくりを推進するため、平成17年6月に「千葉市立高等学校改革基本方針」を策定した。

→同方針に基づき、市立千葉高校には平成19年度入学生より単位制を導入するとともに、市立稲毛高校には中高一貫教育を導入し平成19年度に稲毛高校附属中学校を開校した。

市立千葉高校

千葉大学との連携事業やスーパーサイエンスハイスクール研究で培った研究機関や研究者との連携を生かした出張講義等を教育課程に取り込み、多様な進路ニーズに対応する科目を設置し、普通科に単位制を導入した。

特色 進学重視型単位制高等学校

改革

市立稲毛高校

スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究で培った英語教育の先進的な取組を発展させ、中学・高校の6年間の計画的継続的な指導によりコミュニケーション能力の飛躍的な向上を目指す中高一貫教育を導入した。

特色 真の国際人を育成する中高一貫教育

評価・検証の目的と進め方

改革後4年目となる中で、市民の多様な教育ニーズと社会の変化に対応できる魅力ある市立高等学校づくりのさらなる推進に資するため、「千葉市立高等学校改革 評価・検証研究会」を組織して、本市の高等学校改革のこれまでの**成果と課題**を洗い出し、中間まとめとして整理する。

改革の成果

「基本方針」に基づく本市の高等学校改革は良好な成果

- 1 市立千葉高校及び稲毛高校・附属中学校は進路ニーズや教育ニーズの多様化に適切に対応できており、生徒・保護者の満足度はかなり高い。
 - 「総合的に判断すると市立千葉高校に満足している」の問いに対して、生徒の82%・保護者の90%が「満足」と回答
 - 「総合的に判断すると附属中学校に満足している」の問いに対して、生徒の85%・保護者の97%が「満足」と回答
- 2 市立千葉高校の「多様な進路ニーズに対応した進学重視型単位制」及び稲毛高校・附属中学校の「真の国際人を育成する中高一貫教育校」という改革の特色が、市民には明確でわかりやすい。また、実際にその特色が生かされ教育効果を上げている。
 - 市立千葉高校の4年制大学への現役進学率が、平成15年度卒業生の50.5%に対して、平成21年度卒業生は72.7%と上昇
 - 市立千葉高校の国公立大学現役合格者数が平成19年度25人・20年度24人に対して、平成21年度は40人に増加
 - 附属中学校生徒の9割以上が中学3年在学時に英検準2級（高校中級レベルに相当）を取得
- 3 志の高い教職員とそれに応える生徒のやる気、さらには両校の教育活動に対する行政の支援が相乗効果として表れている。
- 4 これまでの文武両道の教育の伝統と市立千葉高校の理数教育及び稲毛高校の国際理解教育の成果が生かされている。

改革の課題

- 1 学校の特色や改革の成果等についてのアピールについては、さらなる工夫が必要である。（小中学校への授業公開、千葉市教育研究会を通じた交流等）
- 2 稲毛高校・附属中学校の施設設備の改善が必要である。（部活動等の活動場所の確保等）



千葉市教育委員会

教育総務部企画課

学校教育部学事課

☎ 043-245-5908（企画課）

043-245-5928（学事課）

